



スマートフォンを使い、会話がはずむシニア世代

今、日本の人口は減り続け、これによって生ずる労働力不足などのさまざまな問題を、デジタル技術を駆使した社会変革で解決することに期待が寄せられています。

さらに、田原市の場合には、「医療」「教育」「商業」「娯楽」など、都会のように多くの人が集まれば提供されるようなサービスが簡単に手に入りづらいうえに、他市までの距離が遠いなどの課題があります。

一方で、本市には、温暖で豊かな自然の中でのサーフィンやサイクリングなどのスポーツ、温泉や自然景観を活かしたやすらぎやゆったりとした暮らしの提供など、多くの魅力があります。

本市の魅力発信とデジタル技術をミックスしていけば、オンラインで医療・教育・買物・娯楽などのサービスを受けることや、会社に出勤せず自宅で働く「テレワーク」「ワーケーション」(*)など、今までとは違った便利で魅力的な「たはら暮らし」を実現できる可能性があります。

とは言い、デジタル機器を新しく始める方には、不安や抵抗感があるかと思えます。今回、取材した先は、どこも少しずつ取り組ん

田原市では、令和2年2月に田原市DX推進本部を設置し、デジタル技術を活用したまちづくりの推進に取り掛かり、昨年これに向けた方針を策定しました。「誰もが豊かさを享受できる効率的で利便性の高い地域社会の実現」のために取り組んでいます。



▲デジタル社会形成方針

でいる姿が印象的でした。デジタル技術での変革を進める上では、「小さなことから少しずつ始めること」が大切な考え方であるとされています。

できる範囲でやってみて、うまくいかなければやり方を変えてみて、少しずつ自分なりの便利な方法を見つけて積み重ねていけば、昨日よりもちょっと「便利」で「楽しい」毎日がやって来ます。

デジタルと一緒に、自分が望む暮らし方を見つけ、新しい「たはら暮らし」を創りませんか。

※「ワーク(仕事)」と「バケーション(休暇)」を組み合わせた造語。観光地や帰省先でテレワークを活用し、仕事をしつつ自分の時間も楽しむ過ごし方。